



RIAJ
Recording Industry Association of Japan

The Record

September
2012

vol.634

CD30周年に寄せて ~コンパクトディスク クロニクル~
「ミュージック・ジャケット大賞 2012」一般投票実施



Contents

Monthly News Digest	1
特集	
CD30周年に寄せて ～コンパクトディスク クロニクル～	3
特報	
千代田区民講座 音のサロン 第1回 「ビートルズを聴く♪」開催	8
「オーディオ・ホームシアター展 (音展)」開催	8
「ミュージック・ジャケット大賞2012」 一般投票実施	9
PICK UP	10
ヒット曲で振り返る昭和	11
Data File	12
Monthly Production Report	13
GOLD DISC	14

7/20

当協会畑理事 立命館大学 「音楽関連団体共同寄附講座 デジタル／コンテンツ文化・ 産業論Ⅰ」にて講義

7月20日、京都市北区の立命館大学で開催された「音楽関連団体共同寄附講座 デジタル／コンテンツ文化・産業論Ⅰ」において、当協会畑理事が講義を行った。本講座は日本音楽出版社協会、コンサートプロモーターズ協会、日本芸能実演家団体協議会・実演家著作権接権センターの寄附のもと、音楽評論家の反畑誠一氏を客員教授として招き、2009年度から毎年開講されており、今年度は当協会も寄附を行った。また、本講座は、コンテンツビジネスやエンタテインメントビジネスに関心を持つ学生を広く受け入れており、当日は立命館大学の学生のほか、「大学コンソーシアム京都」に参加する京都市内外の大学・短期大学からも多数の学生が参加した。

講義は「著作権法改正と音楽利用拡大に向けた取組み」をテーマに行われ、本年10月1日に施行される私的違法ダウンロード罰則化（著作権法119条3項の新設）に関して、法改正の意図や具体的に罰則の対象となる行為などをわかりやすく講義した。また、音楽のユーザビリティを高めて適法な音楽利用



講義する畑理事



客員教授の反畑誠一氏

を促進するため、最近導入が始まったクラウド型サービス、定額制聴き放題サービスや Non-DRM 配信などの取組みを説明した。講義の最後では、当協会が実施する著作権教育の取組みについても紹介し、将来にわたって良質な音楽を創造するサイクルを維持するために、違法な音楽利用の根絶が喫緊の社会的課題となっていることを説明した。

本テーマに関する学生の関心は高く、講義には約400人の学生が参加した。



会場の様子

7/25

第42回RIAJセミナー開催

7月25日、当協会会議室において、第42回RIAJセミナーが開催された。今回のセミナーは、三上安雄弁護士を講師に招き「近時の人事労務における留意点について」をテーマに、会員社の人事担当者および法務担当者など約50名が参加した。定年後の再雇用制度および有期雇用について、この度の労働契約法改正案の改正ポイントについてなどの説明が行われた。



このエルマークは、レコード会社・映像製作会社が提供するコンテンツを示す一般社団法人日本レコード協会の登録商標です

8/2

第3回 社会とつながる 音楽・教育研究会開催

8月2日、当協会会議室において、NPO 法人企業教育研究会(ACE) 主催、当協会協力による「第3回 社会とつながる音楽・教育研究会」が開催された。今回は「音楽著作権教育と学校での著作物利用について」をテーマに、当協会

法務部の楠本副部長が講義を行った。

今回の研究会は、「若年層に対する著作権教育の必要性が高まる一方、教育現場では著作権について知る機会が少なく、疑問や戸惑いが多い」という声を受けて、学校職員や教育学部の学生を対象に開かれたもので、約20名が参加した。楠本副部長は講義で、著作権の概要や学校で著作物を利用する際の注意事項、また本年10月1日に施行される私的違法ダウンロード罰則化(著

作権法119条3項の新設)の概要について説明を行った。研究会全体を通して、参加者による活発な意見交換や質疑応答がなされた。



「第19回日本プロ音楽録音賞」応募受付開始

配信音源・USB音源が対象の「2chオーディオ・ファイル賞」、 若手エンジニアを顕彰する「新人賞」を新設

一般社団法人日本オーディオ協会、社団法人日本音楽スタジオ協会、日本ミキサー協会、一般社団法人演奏家権利処理合同機構 Music People's Nest、および当協会の5団体が主催する「第19回日本プロ音楽録音賞」の応募受付が9月1日(土)より開始された。

同賞では、音楽文化と産業発展の一翼を担う録音エンジニアが制作した音楽録音作品の中から、優秀作品および最優秀作品を選定する。制作を担ったエンジニアを顕彰することで、エンジニアの技術と社会的地位の向上を図ることが目的である。

今回は従来部門に加え、ハイレゾリューション音源にも焦点を当て、配信音源およびUSB音源を対象とする「2chオーディオ・ファイル賞」を新設する。また、若手エンジニアに対する顕彰を目的に、部門A・B・Cならびに2chオーディオ・ファイル部門からの選定による「新人賞」も新たに設定する。

国内において企画され、2011年9月1日から2012年8月31日までの間に初めて国内で発売および配信、または公に放送された音楽録音作品が審査の対象となる。

【応募作品部門の分類および授賞区分】

部門A 2ch パッケージメディア: クラシック、ジャズ等(CD、SACD、DVD-Audio、DVD-Video、Blu-ray Discの2chステレオ)

部門B 2ch パッケージメディア: ポップス、歌謡曲等(CD、SACD、DVD-Audio、DVD-Video、Blu-ray Discの2chステレオ)

部門C サラウンドパッケージメディア: (SACD、DVD-Audio、DVD-Video、Blu-ray Discのマルチchサラウンド)

部門D 放送メディア: 放送作品部門(ラジオ番組: AM、FM、衛星放送/テレビ番組: 地上波、衛星放送)

2chオーディオ・ファイル賞: 配信音源およびUSB音源の全応募作品より1作品を選定

ベストパフォーマー賞: 部門A~Cならびに2chオーディオ・ファイル部門の全応募作品よりベストパフォーマーを選定

新人賞: 部門A~Cならびに2chオーディオ・ファイル部門の全応募作品より選定(但し、応募時年齢35才までのミキシング・エンジニアによる作品を対象とする)

応募受付期間は、9月1日(土)から9月30日(日)までの必着とする。その他の詳細は、下記URLを参照。

<http://www.japrs.or.jp/pmr/index.html>



CD30周年に寄せて ～ コンパクトディスク クロニクル ～

1982年10月1日。この日、CBSソニーおよびEPICソニーから50作品、日本コロムビアから10作品が、世界初のCDソフトとして発売された。そして同日には、同じく世界に先駆けて、ソニー／日本コロムビア／日立が、CDプレーヤーを発売、「針と溝」が「レーザー光線とデジタル情報」に代わる『夢のオーディオ』が世間に登場した。

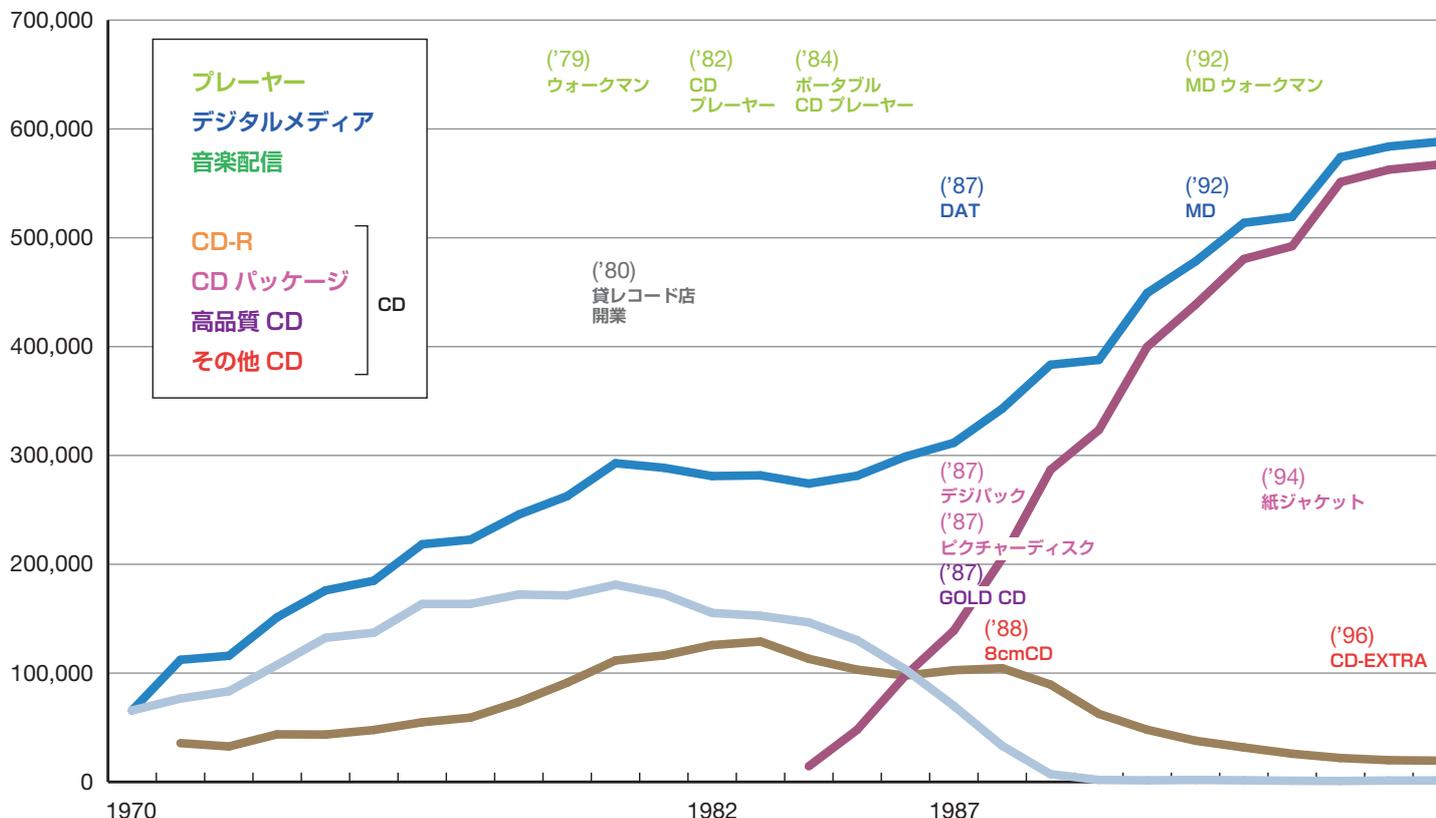
遡ること1カ月前の8月31日、ソニー、フィリップスなど国内外の家電・音響メーカーやレコード会社といった面々が一堂に会した総勢12社の合同による「CDシステム発表会」が開催されていた。「光学式コンパクト・ディスクプレーヤーおよびディスク」の、1カ月後の世界初発売がこの場で発表されると、翌日は一斉に「新時代のオーディオ」などと報道した。直径12cmのデジタル録音された円盤は、「ワンタッチで選曲」「小型・軽量」「半永久的使用」など、当時のオーディオファンの夢を実現させたものであったと思われる。

あれから30年。CDは、日本のレコード産業の活況（ミリオンヒット多発、カラオケブームなど）と比例する形の推移を辿ってきた。CDが私達にもたらしてくれたものは何だったのか。今号ではCD30周年を記念し、その足跡の一端を紹介する。

1982年9月1日付 日本経済新聞朝刊
1982年8月31日開催の「12社合同CDシステム発表会」の新聞記事。「夢のオーディオ」「デジタルで記録、針の代わりにレーザーで読み取るため、ディスクは半永久的に使える」など、新時代のオーディオを謳い、需要拡大の起爆剤として期待する様子がうかがえる

音楽メディア暦年生産金額 推移

(単位百万円)



10月1日 世界初 CD 発売 3,500円～3,800円
(当時、LP 2,800円 大卒男子初任給 13万 1,500円)

CD がアナログを抜く

備考 1970年から税込生産者販売価格、89年からは消費税抜価格

CDの発売年略号

CDジャケットに表記されているCDの発売年は、1994年以前はアルファベット一文字の略号で表記していた。NIHON RECORD KYOKAI（日本レコード協会）のアルファベットを順に使用。（重複するアルファベットは飛ばす）

略号	発売年
N	1984
I	1985
H	1986
O	1987
N	
R	1988
E	1989
C	1990
O	
R	
D	1991
K	1992
Y	1993
O	
K	
A	1994
I	

過去の表記法（1994年以前）



↓

1989年10月8日発売

現在の表記法（1995年以降）



↓

2003年4月23日発売

1995年以降は、年号の数字そのまま表記。



世界一長いアルバムタイトル

1999年発売のFiona Appleのセカンドアルバム（SME Records）は、1999年に最も長いアルバムタイトルとしてギネス記録に認定。



タイトル

『When the Pawn Hits the Conflicts He Thinks Like a King What He Knows Throws the Blows When He Goes to the Fight and He'll Win the Whole Thing 'Fore He Enters the Ring There's No Body to Batter When Your Mind Is Your Might So When You Go Solo, You Hold Your Own Hand and Remember That Depth Is the Greatest of Heights and if You Know Where You Stand, Then You Know Where to Land and if You Fall It Won't Matter, Cuz You'll Know That You're Right!』



邦題は対称的にシンプルな『真実』。

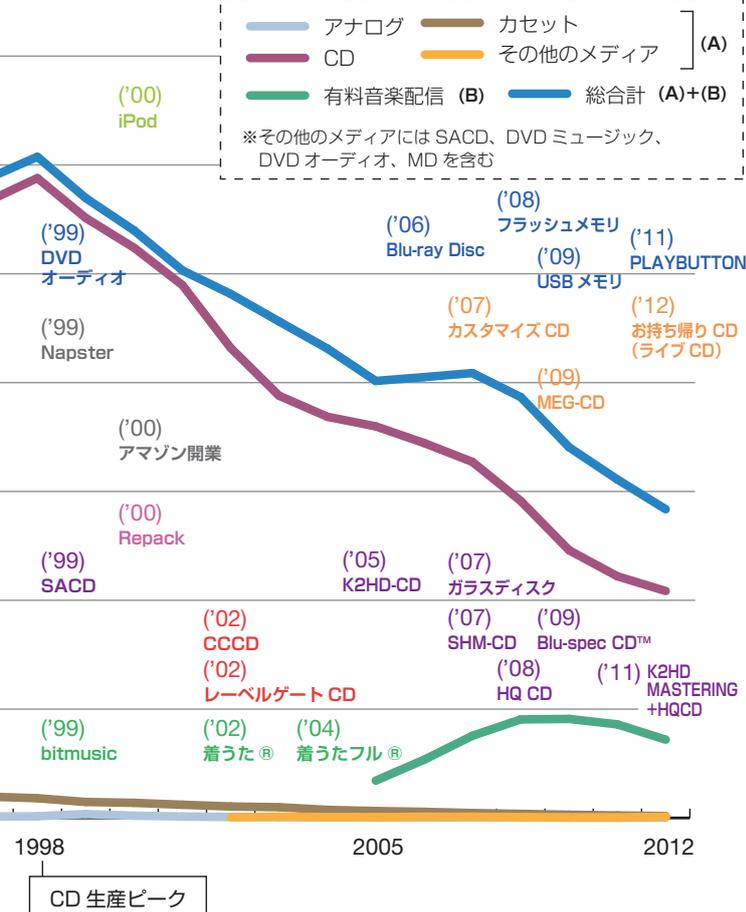
この記録は、イギリスのバンドChumbawambaの2008年発売のアルバム

タイトル

『The Boy Bands Have Won, and All the Copyists and the Tribute Bands and the TV Talent Show Producers Have Won, If We Allow Our Culture to Be Shaped by Mimicry, Whether from Lack of Ideas or From Exaggerated Respect. You Should Never Try to Freeze Culture. What You Can Do Is Recycle That Culture. Take Your Older Brother's Hand-Me-Down Jacket and Re-Style It, Re-Fashion It to the Point Where It Becomes Your Own. But Don't Just Regurgitate Creative History, or Hold Art and Music and Literature as Fixed, Untouchable and Kept Under Glass. The People Who Try to 'Guard' Any Particular Form of Music Are, Like the Copyists and Manufactured Bands, Doing It the Worst Diservice, Because the Only Thing That You Can Do to Music That Will Damage It Is Not Change It, Not Make It Your Own. Because Then It Dies, Then It's Over, Then It's Done, and the Boy Bands Have Won.』

により、破られた。（ギネス申請については不明）

生産金額 推移



世界一高価なCD

(2009年ギネス申請)

『WOMAN』
(ユニバーサルミュージック)

2009年に日本橋高島屋で発売された「1千万円」のCD。プラチナ製ケースの表面に、ダイヤモンド10石（計2カラット）を配した超豪華、完全受注生産のCD。



世界初のCDが生まれた30年前、最初のCDの制作に携わった元・株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの小野志朗氏より、1982年10月1日発売に向けた当時の状況を中心に語っていただいた。



世界初のCDづくり —生みの苦しみを楽しんだ

元・株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント
(株式会社CBS・ソニー時代に、CDプロジェクト・スタッフとして制作を担当)
小野志朗氏

タイトなスケジュールに忙殺される

1982年の年頭、私は、当事会長を務めていらした大賀典雄さんの「世界初のCDを出そう」との号令のもと活動を続けていた、特別な「CDプロジェクト」に参加しました。そのときにはすでに、10月1日に50タイトル、11月1日に50タイトルリリースするというスケジュールが打ち出されていました。その年はもう、忙しかった記憶しかありません。

CDプロジェクトには、工場・スタジオ・営業の各スタッフ、ソニー（株）のエンジニアとともに、制作担当として私とデザイナーが参加していました。私以外は、役付きの方々ばかり。タイトなスケジュールのなか、皆様苦勞されていました。ミーティングでも、製品の歩留まりがはかばかしくない、デジタル

マスタリングの機材がそろわない、などネガティブな情報も聞かれました。特にスタジオ、工場の方々のご苦勞は大変だったと思います。開発力は素晴らしかったですね。例えば、試作機の試聴会が行われた際、プレイボタンを押してから1曲目が再生されるまでに、当初時間がかかっていました。そこで、私が曲の頭出しのスピードを速められないか意見を述べると、一週間もたたないうちに改善されましたから。

100タイトルの商品をどう作るか

CDの商品化にあたり、最初はパッケージの仕様も未定で、アイデアを各方面から募りながら、試作に試作を重ねました。今の紙ジャケットやデジパック的なもの、万引き防止を考慮したシ



1982年10月1日発売
世界初のCD
「ニューヨーク52番街/ビリー・ジョエル」
(品番)35DP1



「ニューヨーク52番街/ビリー・ジョエル」(品番)35DP1
右がLP盤オリジナルのデザイン。(2004年発売の紙ジャケット仕様)縮小複写では文字がつぶれるため、やむなく左のデザインに



CDの盤面の色は、当初ポピュラーは金、クラシックは銀とジャンルで分けていた。赤い顔料を入れて金色になるよう、工場の人に依頼をした



当初は、CDの背面に品番と併せてジャンル別に色が異なる丸印が記されてあった(赤丸はポップス)

シングル盤レコードと同じ17cmのもの、LPと同じ30cmのものなど作り何度もプレゼンテーションを行いました。そして、当時共同開発していたフィリップスとの間でブラケースの仕様が決まったのです。

100タイトルの商品ラインアップは、クラシック・ポピュラー・国内制作で分け、枚数の比率をミーティングで決め、公明正大に売上の良いものから順にタイトル選択しました。さて、ブラケースが決まって、中のブックレットは、基本的にLPの縮小版で制作することになりました。今ならスキャンして取り込めば容易な作業ですが、当時は大変です。海外から印刷用の4色フィルムを取り寄せたりもしましたが、ネガを縮小できず断念し、縮小複写で対応しました。ところがアーティスト写真など人物が上手く再現できず、オリジナルの写真を何とか取り寄せて作り直したり、縮小により文字情報がつぶれるために打ち直したりもしました。LPジャケットの裏面に歌詞がびっしり掲載されている場合は判読不能となってしまうため、デザインを完全に変えました。また、ブックレットの中身は、100タイトル全部が打ち直しになりますから、校正に次ぐ校正の嵐。3～4カ月は費やしました。ブックレットに掲載する対訳は、文字サイズが小さくなりすぎるため縮小複写はできず、ページ数を増やして対応しようかと思ったところ、ブラケースに入らない……。ブラケースに収めるには36ページが限界だということがこれでわかりました。そのほかサイドキャップの試作な



1982年に発売された
CDプレーヤー第1号機「CDP-101」



1984年11月発売
ポータブルCDプレーヤー「D-50」
13.4cm四方のCDジャケットサイズ、CDジャケット4枚分の厚さという、業界初のポータブルCDプレーヤー。4万9,800円という価格とあわせて、大評判となり、当時の低迷した市場を喚起する起爆剤となった

ど、CDの制作は苦勞の多いものでしたが、ものづくりが好きなお私には、楽しく取り組みました。歴史の一端に参加でき、有難く思っています。

世界初という意識は後からついてきた

担当の私たちは、一生懸命取り組んでいましたが、世界に先駆けてすごい技術を出すという気持ちは、あまりありませんでした。即座に結果の出るものでもないと思えていましたし、社内の注目度もそこまでではなかったと思います。「ニューヨーク52番街／ビリー・ジョエル」も、当初は世界初というイメージではなく、おそらく後に、勢いのあるポピュラーミュージックだから、世界へアピールするアイコンとして定着したのだと思います。

プロジェクトの背景にあったユーザーの視点

最初の100タイトルを出して、ユーザーの反響は上々でした。アンケートの回答はジャズファンなど、かなりの音楽ファンばかりで、女性や若者は少なかったですね。どんどん出してほしいという要望がありました。その後、ポータブルなCDプレーヤーのD-50が出て、CDは大ブレイクします。CDの登場で、アルバムの作り方もかつてのようなA面、B面の考え方ではないアプローチが出てきたと思います。従来は、A面のラストの曲が終わったらそこで盤を裏返す作業を経て、B面の再生が始まりました。ところがCDは、1曲目を再生したらラストまで盤を裏返す作業など必要ありません。A面のラストの曲、B面の1曲目は、CDではアルバム全体の中間に位置することになります。CDが出て、作り手はこういった曲順の構成についての意識も変化したと思います。

CDプロジェクトを推進した大賀さんが、ベートーベンの第九が入る長さでという条件を出されて、75分というCDのキャパシティが決まったという、有名な話があります。大賀さんは、まさにCDの父。大局的に見てCDの可能性を引き出し、実現させたのです。また大賀さんは、大局観だけではなく、非常に繊細なきめ細かい目配りをお持ちでした。それは一人の音楽ユーザーの視点だったと思います。今後CDがどうなるかわかりませんが、音楽の入るものは残っていくと思います。社会に音楽を楽しむ余裕が、これからも続いていけばいいと願っています。(談)



山野楽器の清水雅明本店営業部本店長は、CDの登場から浸透まで、店頭でつづきに見てこられた。今回、CDが音楽市場で果たしてきた役割などについて、コメントをいただいた。



音楽の新しい聴き方、 売り方をもたらした CD のインパクト

山野楽器
本店営業部本店長
清水雅明

ノイズのないクリアな音に驚く

CDが登場した1982年当時、私は銀座の山野楽器本店の2階、クラシック売り場の担当者でした。CD発売の具体的な情報を入手したのは、リリース予定も押し迫った9月頃。技術的なことも把握できない状況でしたので、とにかく聴かせていただこうと、日本コロムビアさんをお願いしました。スタジオに20名ほどでお邪魔しましてピアノ曲を試聴したのですが、レコードではパチパチノイズで始まるところが、CDでは、いきなりピアノの音が立ち上がり、まったくストレスなく聴けました。その後CDとCDプレーヤーを買いたい人は？と聞かれ、その場の全員がイエスと答えたという、そのくらいのインパクトがありました。これは、革新的なメディアができたなと思いました。

高級品だった初期のCD

革新性はあっても、正直なところ、CDの出始めの頃、販売現場は、売れるのかどうか半信半疑の状況でした。しかし当時は、1970年代後半から右肩下がりレコード売上が鈍化したので、当店でCDが起死回生のメディアになると期待し、積極的に押していく方針を取りました。そのためにはやはり、実際に音を聴いていただくのが一番だと考え、上階のホールにCDプレーヤーを数台設置し、昼休みのお客様にオープンな試聴会を行い、クラシックやポピュラーを中心に多くの方に興味を持っていただきました。タイトル数も少なく、レジカウンター付近に商品を並べていたのですが、すぐ人だかりができて、我先にと後ろから手を伸ばしてくる人もいたという状況だったので覚えています。スタート時は、売上と在庫のバランスが悪く、苦勞も多かったですね。

CDは当時、高額な商品でしたから、売り場では気を遣い、お客様にお渡しするときは、丁寧に包装をしました。大事な愛蔵品として、高級感を大切にしたいわけです。

「コンパクト・ディスク」から「CD」へ —市場の発展とともに

その後、CDラジカセやCDウォークマンといった機器の発達に伴い、CDは大発展していきます。1987年頃には商品ラインアップも大幅に充実し、LPとCDの生産量が逆転していきます。そのうち当初の「コンパクト・ディスク」の呼称が「CD」の略称へ変わって定着し、これは普及したなと実感しました。

CDと再生機器の発展は、音楽の聴き方を大きく変えたと思います。特にクラシックの分野では、音のクリアさとともに、盤の交換や裏返し作業なしで、連続的に曲を楽しめるようになり、ファンから歓迎されました。制作レーベルも増え、輸入盤も数多く入り、市場も拡大しました。一方で、CDラジカセなどを使い、手軽に「ながら聴き」ができるようになり、音楽をBGMとして楽しむことも定着しました。以前は販売の難しかったコンピレーション・アルバムも売れるようになり、音楽をカジュアルに楽しむ人が増えました。

一方、レコードでは「売れないから」となかなか商品を発売しなかったジャンルで、次々と貴重な作品が商品化されたのは、CDの大きな功績だと思います。クラシックでは歴史的名盤やオペラ、バロック音楽、また耳に新しいワールド・ミュージックやジャズにもお客様が幅広い音楽を楽しめる環境ができました。

販売方法の一つとしてCDの特設売場を店頭を設置し、音楽を流しながら売る、という手法も確立しました。当店で1992年頃に「パッヘルベルのカノン」を流して、2年ほどで1万枚の販売実績をあげたことがありました。お客様の「どこかで聴いたことがある」体験に寄り添うかたちの販売方法ができました。

CDが発売されてからの30年、音楽市場はこれまでにない激動の時代を経験したのではないのでしょうか。音楽の聴き方や売り方を変え、さらには作り方にまでも影響している。次世代のデジタル技術にもつながっていますし、非常にインパクトの強いメディアだと改めて思います。(談)

千代田区民講座 音のサロン 第1回「ビートルズを聴く♪」開催

千代田区立日比谷図書文化館、一般社団法人日本オーディオ協会（JAS）および当協会の共催で、日比谷カレッジ 第6回千代田区民講座「音のサロン」が開催される。

昨今の多くの若年層では、圧縮された音源をイヤホンやヘッドホンで聴くスタイルが主流となりつつある。このようにスピーカーでの音楽鑑賞の機会が少ない方々を対象として、「良質の音楽を良質

の環境で聴く」体験をしていただき、臨場感溢れ、深みのある音楽の魅力を楽しんでいただく講座「音のサロン」を開催する。第1回目はデビュー50周年を迎えた「ビートルズ」をテーマに、数々の名曲とともに、国内初代ディレクターの高嶋弘之氏による当時のエピソードや解説を、日本を代表する最新のオーディオ機器でお楽しみいただく。

音のサロン第1回 開催概要

日比谷カレッジ 第6回千代田区民講座
音のサロン 第1回「ビートルズを聴く♪」

＜共催＞ 千代田区立 日比谷図書文化館、一般社団法人日本オーディオ協会、一般社団法人日本レコード協会

＜内容＞ 第1回のテーマは、デビュー50周年を迎えた「ビートルズ」。彼らの楽曲を楽しむとともに日本の初代ディレクターを務めた高嶋弘之氏を講師に迎え、エピソードなどを語っていただく。

（使用機器）SACD / CD プレーヤー：DENON DCD-SX
コントロールアンプ：Accuphase C-2820
パワーアンプ：Accuphase A-65
スピーカー：FOSTEX G2000

＜講師＞ 高嶋 弘之氏（高嶋音楽事務所 代表）

＜会場＞ 日比谷図書文化館 4階「スタジオプラス（小ホール）」

＜開催日時＞ 9月27日（木）18:30～20:00（18:00受付開始）

＜定員＞ 60名（申込順） ※定員に達し次第締め切ります

＜参加料＞ 無料（千代田区以外の方もご参加いただけます）

＜申込み・問合せ＞ 電話またはEメールで日比谷図書文化館へ

電話：03 - 3502 - 3340

Eメール：college@hibiyal.jp

※「音のサロン」は、今後も様々なテーマを設け定期的（年4回程度）に開催する



高嶋弘之：

1934年神戸市生まれ。1959年東京芝浦電気（株）レコード事業部（現：株）EMIミュージック・ジャパン）に入社後、ビートルズの初代ディレクターとして活躍。1962年のデビュー盤「ラヴ・ミー・ドゥー」をはじめとして、「抱きしめたい」「ノルウェイの森」「涙の乗車券」など邦題全曲を命名。イギリスのポップス・マーケットがまだ世界で認知されていない時に、マスコミも評論家も否定的だったイギリスのポピュラー音楽を日本で開花させた。

「オーディオ・ホームシアター展（音展）」開催 ココロゆさぶる音楽のヒミツおしえて

10月19日から21日にかけて、一般社団法人日本オーディオ協会（JAS）主催による「オーディオ・ホームシアター展（音展）」が千代田区秋葉原にて開催される。

「音と映像で創りだす感動の空間。」を開催コンセプトに、「音と映像の最新技術の提案」「オーディオの歴史を振り返るミュージアム」など、各種展示とともに試聴聴会やセミナーといった多彩なイベントプログラムを実施、多くの来場者へ体験体感の場を提供する。

当協会は、近年伸長を遂げている音楽 Blu-ray Disc の普及促

進を目的に、「音楽 Blu-ray Disc と音楽 DVD の見比べ、聴き比べ」スペースを設置する。同一機材での試聴聴環境を提供の上、来場者に見比べ、聴き比べを体験してもらい、鮮明で臨場感あふれる画面や音響の魅力を感じていただく。

また、音のサロン実行委員会による試聴会では、当協会主催の「高音質 CD から高音質音楽（HD-Sound）までの音質の進化」を実施する。講師のレクチャーのもと、高音質／高品質 CD の音質をハイクオリティなオーディオで体感いただく。

「オーディオ・ホームシアター展」開催概要

会期：2012年10月19日（金）～10月21日（日）

19日（金）10:00～19:00

20日（土）10:00～19:00

21日（日）10:00～17:00

会場：秋葉原UDX、富士ソフトアキバプラザ、秋葉原電気街 他

主催：一般社団法人日本オーディオ協会

企画・運営：オーディオ・ホームシアター展2012実行委員会

公式サイト <http://www.oto10.jp/>

音のサロン「試聴会」

「高音質 CD から高音質音楽（HD-Sound）までの音質の進化」

日時：2012年10月20日（土）13:00～14:00

講師：ビクターエンタテインメント株式会社

ビクタースタジオ デジタルソリューショングループ

グループ長兼 K2 ラボラトリーソフト開発担当 鈴木 順三氏



「ミュージック・ジャケット大賞 2012」一般投票実施 ～好きな音楽があるように好きな音楽ジャケットもきっとある！



「ミュージック・ジャケット大賞 2012」は、二次審査となる一般投票を実施、音楽ファンの皆さんからの投票が行われた。



ハガキで投票！ 東京・大阪の CD ショップコーナー展開店で投票ハガキを配布

(東京) タワーレコード新宿店／タワーレコード渋谷店／紀伊國屋書店新宿南店

(大阪) タワーレコード梅田大阪マルビル店／タワーレコード難波店

タワーレコード新宿店 (7/23～8/31)



タワーレコード渋谷店 (7/23～8/31)



紀伊國屋書店新宿南店 (7/19～7/26)



大賞候補作品のかたわらには『音楽は聴くだけじゃない！
感じるんだっ！ジャケットから…』の手書き POP が

「ノミネート作品絶賛発売中！」

タワーレコード
梅田大阪マルビル店
(7/27～8/31)



タワーレコード難波店
(7/27～8/31)

難波店は、4F・6Fの
2フロアで展開



CD を見て投票！

「ミュージック・ジャケット大賞 2012 公式ギャラリー」として、東京・大阪の 2 会場で大賞候補 50 作品および特別賞候補 15 作品を展示＆投票を受け付け



50 作品の CD と各社推薦コメントを展示。作品を実際に見たその場で、投票を受け付けた



初回限定盤や豪華パッケージが対象の特別賞候補 15 作品も展示



ネットで投票！ (7/18～8/31)

特設サイト (<http://mja.jpn.com/>) では、大賞候補 50 作品全てのインレイデザイン、各社推薦コメントを掲載し、投票を受け付け

大賞を初めとする受賞作品の発表は 2012 年 10 月上旬を予定。結果をお楽しみに！！

PICK UP

今月のニュース・ピックアップ

PICK UP

五感で楽しむ 音楽とデザインの世界「Music Jacket Gallery 2012」開催

MJG2012 実行委員会が主催する「Music Jacket Gallery 2012 SOUND & ARTWORK」が、7月19日から24日の日程で東京新宿の新宿高島屋、7月27日から8月1日の日程で大阪梅田のHEP HALLにて開催された。

今回のメインテーマは「1982 - 2012 音楽の魅力を変えたCDの30年」。1982年10月の世界初音楽CD登場からの30周年を記念し、時代を映しつつ変遷を遂げてきたCDを中心に約400点の音楽パッケージが一挙に展示された。音楽とデザインを目と耳で感じる「五感で楽しむ音楽とデザインの世界」が展開された東京会場の模様をレポートする。



SOUND & ARTWORK

① 音楽CD、30年の変遷

「音楽CDパッケージ、30年の変遷」と題したコーナーでは、1982年10月1日発売の「世界初の音楽CDソフト」をはじめ、「8cm・マキシCDシングル」「透明ディスクトレイ」「紙ジャケット」「デジパック」など、時代を象徴するパッケージを多数展開、音楽文化の歴史を垣間見とれる。



④ プリティッシュ・ロック&ポップスの50年

ロンドンオリンピックを記念し、進化し続けてきたUKロック&ポップスの50年の歴史を代表する名盤CDジャケット200作品が勢揃い。



⑤ 音楽CDができるまで

「ジャケット印刷」から「ディスク製造」までCDの製造工程を製作途中のプロダクトとともに公開。



② 「ニューヨーク 52番街」から見る、CDの変遷

第1号CD「ニューヨーク52番街（ビリー・ジョエル）」は、「ピクチャーレーベル」「紙ジャケット」「SACD」「Blu-Spec CD™」など、30年の歴史を表す各種パッケージを一堂にした圧巻の展示。



③ CDだけじゃない、レコーデッド・メディア

フィギュア型・アクセサリ型のUSB、PLAYBUTTON、フラッシュメモリなど、新しい可能性を秘めつつ、グッズ感覚溢れる多様な音楽記録メディアを紹介。



昨年のミュージック・ジャケット大賞より、大賞候補50作品の一部が、会場を彩る

(公式 HP) <http://www.epa-mjg.com/>
(公式 twitter アカウント) @musicjacket

ヒット曲で 振り返る 昭和



歌は世につれ世は歌につれ—

音楽評論家・反畑誠一氏の執筆のもと、

時代を彩ったヒット曲から、激動の「昭和」を追想する。

昭和 35年～40年 (1960～1965)

S36 「上を向いて歩こう / (唄) 坂本九」 (作詞) 永六輔 (作曲) 中村八大

レコード発売から50年の歳月が経っても「日本人が日本語で歌い世界的にヒットした唯一の楽曲」である。昭和38年6月15日付米国の週刊音楽産業雑誌『ビルボード』の「THE TOP FIVE」に、『Sukiyaki』、KYU SAKAMOTOがナンバー・ワンになった記録が明記されている。Writers: Rokusuke Ei (永六輔)、Hachidai Nakamura (中村八大)、Producer: Koji Kusano (草野浩二) の名前とともに、「3週間」と記載しており、7月6日付「トップ5」でもエセックス『内気な17才』に続いて第2位にランクインしている。

この歌の原題は『上を向いて歩こう』。昭和36年から5年間にわたってNHKテレビで放送された伝説のパラエティ番組『夢で逢いましょう』で坂本九が歌い、たちまち話題になった楽曲である。番組のプロデューサーも兼ねていた故中村八大が作ったメロディーに、構成担当の永六輔が歌詞をつけたものだという。奇跡の超ヒット曲の誕生について草野浩二氏は「東芝音楽工業 (現EMI) はレコード会社としては後発であり、老舗のように専属の作詞・作曲家、演奏家がほとんどいなかったから自由な発想で音楽づくりができた」と指摘する。音楽クリエイターのアトリエはテレビスタジオだった。したがってテレビが最高のプロモーションメ

ディアの役割を果たしていた時代である。

『上を向いて歩こう』の海外進出には整理をすると2つの物語がある。「62年に日本へ出張した英国パイ・レコード会社ルイス・ベンジャミンは、この曲を聴き、ジャズマンのケニー・ポールにレコーディングさせることを考え付いた。しかし英国のDJたちは、元のタイトルでは発音できそうにない。そこで大抵の英国人がよく知っている『スキヤキ』の名でリリースすることになった」という。ちなみに昭和38年1月、全英で10位を獲得している。

一方、全米では、ワシントン州のKORD局のDJ、リッチー・オズボーンが坂本九のオリジナル盤を入手し、夕方の番組でオンエアしたところ、たちまちリスナーから大反響があり、ワシントン州全体に広まった。その後、米国ではキャピトル・レコードが販売権を獲得し、『スキヤキ』のタイトルのまま販売され、外国語による初のNO.1ヒットソングになった。これまでの全世界での売り上げ枚数は1500万枚超に達している。「カントリー・ウエスタン調だったから売れた」と草野氏。坂本の歌唱法のルーツは「発想は浪曲」永六輔氏。興味深いのは坂本九の第2弾シングルが存在したこと。タイトルは『支那の夜』。東洋色が強すぎて売れなかったそうだ。



S39 「東京五輪音頭」 (作詞) 宮田隆 (作曲) 古賀政男

「四年たったら また会いましょと かない約束 夢じゃない。『東京五輪音頭』の歌い出しである。この歌が発表されたのは開催の前年、昭和38年6月23日のオリンピックデーであった。

「詩を手渡された時、私は「四年たったらまた会いましょ」という詩を読んで、3年前日本とイタリーの旗を持った案内人の言った言葉を思い出していた。「つわものどもが夢のあと」ガランとした(ローマの)スタジアムには人影はなかった。しかし、それはどのようにして力を競われたかを、私に想像させるに充分であった。3年前の感動が私の胸に再びよみがえってきた。それからまもなく私はメロディーを書き上げたのである」。昭和の代表的な流行歌王「古賀政男 自傳わが心の歌」一序に変えて一に記してある。NHKから作曲の委嘱を受けて書き上げた「音頭」だった。

歌唱は、三波春夫(テイチク)、橋幸夫(ビクター)、三橋美智也(キング)、坂本九(東芝)、北島三郎&島山みどり(コロムビア)、大木伸夫&司富子(ポリドール)、藤山一郎(ソノレコード)の競作であった。「三波春夫の百五十万枚を筆頭に全部で三百万枚ほど売れたように聞いている。印税なしだから正確なことは私にもわからない」(古賀政男氏)。まだ作詞・作曲家、歌手、演奏家には厳しい専属契約制度が存在していた時代で、画期的な競作であった。「戦前の歌謡界の革命児が古賀さんであったし、戦後のポピュラー音楽界の革命児は中村八大君だ。昭和期の二人の革命児がいずれも筑後(注・福岡県南部)出身だからねえ」とは同郷の詩人・野田宇太郎氏の評価だ。B面曲は「東京五輪おどり」であった。終戦から19年。東京五輪で、驚異的な復興を遂げた日本は国際社会に復帰ができた。



JASRAC 出1210830-201
ジャケット写真協力: 財団法人古賀政男音楽文化振興財団/株式会社EMIミュージック・ジャパン/株式会社テイチクエンタテインメント

当時の出来事

- S35: 安保闘争、レコード生産枚数 7,381 万 3 千枚 (S11 年の 2.5 倍)・販売店も 4 千店をクリア、ダッコちゃん大人気
- S36: ガガーリン少佐「地球は青かった」、大鵬横綱昇進、国立国会図書館開館、ステレオ電蓄全盛期、CM「トリスを飲んでハワイへ行こう」、テレビ 1 千万台突破、ラジオ 1 千万台割る、有線放送が各地で流行
- S37: 植木等無責任大ブーム、「リブソング」登場 (25 個入り 250 円)、「リ

- ポピタンD」発売 (150 円)、レコードの輸入自由化スタート、CM「スカットさわやかコカ・コーラ」
- S38: スキヤキ米で大ヒット、ケネディ大統領暗殺、コンフレック発売 (100 円)、べんてる「サインペン」誕生 (50 円)、「こんにちは赤ちゃん」日本レコード大賞
- S39: 東京オリンピック、「愛と死をみつめて」ベストセラー、クリネックスティッシュ発売 (100 円)、かっぱえびせん発売 (50 円)、ソニー家庭用ビデオテープレコーダー

- 発売、海外旅行自由化、東海道新幹線「ひかり」運行開始、都はるみデビュー
- S40: アメリカ・ベトナム北爆開始、日本航空「ジャルパック」発売・大ヒット、ソ連が人類初の宇宙遊泳成功、洗濯機普及率 61%、「アイビー族」出没、日韓基本条約調印、韓国・文化流入抑止など対日規制案発表、ビートルズ人気上昇とともに世界的エレキ・ブーム、オロナミンC 登場 (100 円)、日本テレビ「11PM」開始、第1回プロ野球ドラフト会議



反畑誠一 (音楽評論家)
立命館大学産業社会学部
客員教授 (『ポピュラー音楽概論』、日本音楽著作権協会理事、日本レコード大賞常任実行委員)

2012年第2四半期（4月～6月）および上半期音楽配信売上実績について

2012年第2四半期は、数量で前年同期比71%の6,715万ダウンロード、金額で前年同期比71%の131億7,300万円となった。内訳では、インターネットダウンロードが、金額で前年比127%の39億5,800万円、モバイルダウンロードが、前年比58%の88億1,500万円、サブスクリプション等その他が、4億円となっている。

この結果、2012年上半期の累計では、数量で前年比74%の1億4,532万ダウンロード、金額で前年比75%の285億8,300万円となった。

(数量:千回/金額:百万円)

	形態	2012年4月～2012年6月 累計			
		数量	前年同期比	金額	前年同期比
インターネット ダウンロード	シングルトラック	15,798	122%	2,703	141%
	アルバム	1,029	118%	1,099	106%
	小計（オーディオダウンロード分）	16,827	122%	3,802	129%
	音楽ビデオ	570	92%	155	99%
	その他	4	-	0	-
	合計	17,401	120%	3,958	127%
モバイル	Ringtunes	11,509	50%	1,147	50%
	Ringback tunes	20,218	79%	1,766	79%
	シングルトラック	16,314	57%	5,380	55%
	音楽ビデオ	706	40%	285	42%
	その他	410	77%	237	88%
	合計	49,158	62%	8,815	58%
その他	サブスクリプション（インターネット）			113	105%
	サブスクリプション（モバイル）			89	120%
	その他（その他のデジタル音楽コンテンツ）	588	140%	198	168%
総合計		67,146	71%	13,173	71%

(数量:千回/金額:百万円)

	形態	2012年1月～2012年6月 累計			
		数量	前年同期比	金額	前年同期比
インターネット ダウンロード	シングルトラック	33,067	127%	5,416	145%
	アルバム	2,006	121%	2,167	114%
	小計（オーディオダウンロード分）	35,073	127%	7,582	134%
	音楽ビデオ	1,296	100%	346	104%
	その他	7	-	0	-
	合計	36,376	126%	7,929	133%
モバイル	Ringtunes	26,587	54%	2,645	53%
	Ringback tunes	42,163	79%	3,689	79%
	シングルトラック	36,916	64%	12,456	62%
	音楽ビデオ	1,604	46%	650	47%
	その他	725	63%	499	90%
	合計	107,995	65%	19,939	63%
その他	サブスクリプション（インターネット）			211	116%
	サブスクリプション（モバイル）			156	102%
	その他（その他のデジタル音楽コンテンツ）	947	51%	348	175%
総合計		145,317	74%	28,583	75%

注：数量…ダウンロード回数

Monthly Production Report

2012年7月度レコード生産実績

7月度の音楽ソフト（オーディオレコード・音楽ビデオの合計）生産実績は、数量で前年同月比122%の2,391万枚・巻、金額で同115%の239億8,200万円となった。

内訳は、オーディオレコードが、数量で前年同月比121%の1,954万枚・巻、金額で同111%の188億7,500万円、音楽ビデオが、数量で前年同月比124%の437万枚・巻、金額で同130%の51億800万円となっている。

● オーディオレコード

(数量:千枚・巻/金額:百万円)

			7月実績						2012年1月～2012年7月累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
シ	8cmCD	邦	1	0	0%	1	0	4%	37	0	10%	29	0	69%
		洋	0	0	-	0	0	-	0	0	4%	0	0	20%
		計	2	0	0%	1	0	4%	37	0	10%	29	0	68%
ン	12cmCD	邦	6,810	35	134%	4,822	26	122%	35,617	31	113%	25,091	21	114%
		洋	48	0	215%	34	0	238%	919	1	98%	657	1	101%
		計	6,858	35	134%	4,857	26	123%	36,535	32	113%	25,748	22	114%
グ	小計	邦	6,812	35	125%	4,823	26	121%	35,654	31	112%	25,120	21	114%
		洋	48	0	215%	34	0	238%	919	1	98%	658	1	101%
		計	6,859	35	126%	4,858	26	122%	36,573	32	111%	25,777	22	114%
ル	12cmCD アルバム	邦	9,828	50	121%	11,484	61	115%	55,891	49	99%	74,003	62	99%
		洋	2,676	14	116%	2,354	12	91%	19,323	17	99%	17,706	15	88%
		計	12,504	64	120%	13,838	73	110%	75,214	66	99%	91,709	77	97%
CD 合計	CD 合計	邦	16,640	85	123%	16,308	86	117%	91,545	81	103%	99,123	83	102%
		洋	2,724	14	117%	2,388	13	92%	20,242	18	99%	18,364	15	89%
		計	19,364	99	122%	18,696	99	113%	111,787	99	103%	117,487	99	100%
アナログ ディスク	アナログ ディスク	邦	0	0	0%	0	0	0%	64	0	65%	24	0	15%
		洋	9	0	381%	10	0	377%	50	0	143%	69	0	111%
		計	9	0	14%	10	0	9%	114	0	85%	93	0	42%
カセット テープ	カセット テープ	邦	135	1	91%	109	1	97%	1,116	1	86%	892	1	88%
		洋	1	0	-	0	0	-	3	0	-	1	0	-
		計	136	1	92%	109	1	97%	1,119	1	87%	893	1	88%
その他	その他	邦	11	0	60%	12	0	61%	115	0	123%	132	0	117%
		洋	21	0	48%	46	0	43%	261	0	104%	456	0	91%
		計	32	0	51%	59	0	46%	376	0	109%	588	0	96%
合計	合計	邦	16,785	86	122%	16,429	87	115%	92,840	82	103%	100,171	84	102%
		洋	2,755	14	116%	2,445	13	90%	20,556	18	99%	18,889	16	89%
		計	19,540	100	121%	18,875	100	111%	113,396	100	102%	119,061	100	100%

● 音楽ビデオ

			7月実績						2012年1月～2012年7月累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD	DVD	邦	3,988	91	122%	4,366	85	129%	31,768	89	105%	33,908	81	95%
		洋	203	5	115%	210	4	92%	2,542	7	99%	2,695	6	87%
		計	4,191	96	122%	4,576	90	127%	34,310	96	105%	36,603	88	94%
Blu-ray Disc	Blu-ray Disc	邦	170	4	247%	509	10	166%	1,287	4	122%	4,575	11	162%
		洋	8	0	88%	23	0	100%	194	1	337%	517	1	298%
		計	178	4	228%	532	10	161%	1,480	4	133%	5,092	12	170%
テープ・その他	テープ・その他	0	0	0%	0	0	0%	8	0	177%	13	0	120%	
合計	合計	邦	4,158	95	125%	4,875	95	132%	33,063	92	106%	38,496	92	99%
		洋	211	5	114%	233	5	93%	2,735	8	104%	3,212	8	98%
		計	4,369	100	124%	5,108	100	130%	35,798	100	105%	41,708	100	99%

● 音楽ソフト（オーディオ/音楽ビデオ合計）

			7月実績						2012年1月～2012年7月累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ	オーディオ	19,540	82	121%	18,875	79	111%	113,396	76	102%	119,061	74	100%	
音楽ビデオ	音楽ビデオ	4,369	18	124%	5,108	21	130%	35,798	24	105%	41,708	26	99%	
合計	合計	23,909	100	122%	23,982	100	115%	149,194	100	103%	160,768	100	100%	

● ビデオ（含音楽ビデオ）

			7月実績						2012年1月～2012年7月累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD	DVD	7,947	86	109%	11,756	73	106%	57,627	87	94%	83,841	77	90%	
テープ・その他	テープ・その他	1,347	14	146%	4,346	27	177%	8,633	13	133%	24,990	23	140%	
合計	合計	9,294	100	114%	16,102	100	119%	66,261	100	98%	108,831	100	98%	

● オーディオ/ビデオ合計

			7月実績						2012年1月～2012年7月累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ	オーディオ	19,540	68	121%	18,875	54	111%	113,396	63	102%	119,061	52	100%	
ビデオ	ビデオ	9,294	32	114%	16,102	46	119%	66,261	37	98%	108,831	48	98%	
合計	合計	28,834	100	119%	34,977	100	115%	179,657	100	101%	227,892	100	99%	

備考 1. 本年実績は、会員会社の集計である。当会員社が受託した非会員社からの販売委託分を含む
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある
※オーディオレコードのその他は SACD、DVD オーディオ、DVD ミュージック、MD の合計

音楽ソフト

邦楽

アルバム

● ダブル・プラチナ

I LOVE YOU -now & forever-	桑田 佳祐	2012.07.18	V
----------------------------	-------	------------	---

● プラチナ

Ray Of Hope	山下 達郎	2011.08.10	WJ
-------------	-------	------------	----

● ゴールド

ENTERTAINMENT	SEKAI NO OWARI	2012.07.18	TF
エロ	山下 智久	2012.07.25	WJ

シングル

● プラチナ

ありがとう	いきものがかり	2010.05.05	ES
ER	エイトレンジャー	2012.07.25	TE
チャンカパーナ	NEWS	2012.07.18	JE

● ゴールド

BOW & ARROWS	EXILE	2012.07.25	AMI
TO THE LIMIT	KAT-TUN	2012.06.27	JA
ANDROID	東方神起	2012.07.11	AMI
ロマンス・プライベート	フレンチ・キス	2012.07.18	AMI
LOVE CHASE	山下 智久	2012.07.04	WJ
大人ジェリービーンズ	渡辺 麻友	2012.07.25	SR

ビデオ

● ゴールド

King・Kinki Kids 2011-2012	Kinki Kids	2012.07.18	JE
東方神起 LIVE TOUR 2012 ~ TONE ~	東方神起	2012.07.25	AMI

洋楽

アルバム

● ゴールド

ピリーヴ	シェネル	2012.07.04	EMI
------	------	------------	-----

シングル

● ゴールド

HEAT	キム・ヒョンジュン	2012.07.04	UM
------	-----------	------------	----

※日付は発売日

認定基準一覧

音楽ソフト(邦・洋、アルバム・シングル・音楽ビデオ)、音楽配信(着うた®、着うたフル®、パソコンダウンロードシングル・アルバム)共通

名称	略号	基準
ゴールド	G	10万以上
プラチナ	P	25万以上
ダブル・プラチナ	PP	50万以上
トリプル・プラチナ	PPP	75万以上
ミリオン	M	100万以上
2ミリオン	2M	200万以上
3ミリオン	3M	300万以上
以降、100万毎に賞を設定		

基準単位: 音楽ソフト・枚、配信・DL (ダウンロード)

※着うた®のみダブル・プラチナ以上を顕彰

※ **AI:** ソニー・ミュージックアソシエイテッドレコーズ / **AMI:** エイベックス・マーケティング / **DF:** デフスターレコーズ / **EMI:** EMI ミュージック・ジャパン / **ES:** EPIC レコードジャパン / **JA:** ジェイ・ストーム / **JE:** ジャニーズ・エンタテインメント / **K:** キングレコード / **SR:** ソニー・ミュージックレコーズ / **SV:** アニプレックス / **TE:** テイチクエンタテインメント / **TF:** トイズファクトリー / **UM:** ユニバーサルミュージック / **V:** ビクターエンタテインメント / **WJ:** ワーナーミュージック・ジャパン

有料音楽配信(「着うた®」他)

※「着うた®」「着うたフル®」は株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です

「着うたフル®」

邦楽

● ダブル・プラチナ

Love Story	安室 奈美恵	2011.12.07	AMI
------------	--------	------------	-----

● プラチナ

君の知らない物語	supercell	2009.08.12	SR
Dear	中島 美嘉	2011.04.20	AI
瞳をとじて	平井 堅	2006.06.07	DF

● ゴールド

甲賀忍法帖	陰陽座	2008.09.12	K
ただいま	JUJU	2012.05.30	AI
サムライハート (Some Like It Hot!!)	SPYAIR	2011.05.23	AI
恋愛サーキュレーション	化物語	2010.01.27	SV
マニフェスト	RADWIMPS	2010.06.30	EMI

洋楽

● ゴールド

ピリーヴ	シェネル	2012.06.20	EMI
------	------	------------	-----

「PC 配信 (シングル)」

洋楽

● ゴールド

ピリーヴ	シェネル	2012.06.20	EMI
------	------	------------	-----

※日付は配信開始日

協会からのお知らせ

10月24日から25日にかけて「第9回東京国際ミュージックマーケット (9th TIMM)」が開催されます。

今年度は場所をお台場に移し、「TIFFCOM2012」「Creative Market Tokyo2012」「東京国際アニメ祭2012秋」「9th TIMM」の4つのコンテンツマーケットが同一会場に集うこととなり、より華やかで賑わいのあるイベントとしての期待が高まります。

詳細は下記URLをご覧ください。

<http://www.timmkt.jp/>



THE RECORD No.634 2012年9月号

一般社団法人 日本レコード協会 機関誌

発行人 北川 直樹
編集人 田口 幸太郎
発行日 2012年9月10日
発行 一般社団法人 日本レコード協会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-2-5 共同通信会館9F
TEL. 03-5575-1301 (代) FAX. 03-5575-1313
URL: <http://www.riaj.or.jp/>

制作協力 株式会社エフピーアイ・コミュニケーションズ

編集後記

父親がレコード好きだったためか、幼少の頃は、ぬいぐるみやお人形ではなく、ドーナツ盤やソノシートなど、レコードを買ってもらった思い出が多くあります。その後、思春期にはラジオのエアチェック～目当ての曲待ちでラジカセ前で緊張しつつ録音ボタンに指をかけスタンバイ～など、地味な音楽体験が思い出されます…。本号の特集では、CD誕生にまつわる体験談をお伝えしようと企画しましたが、実の所、当時を経験された方を探すのに苦労しました。取材をお受けいただいた小野様、清水様にあらためて御礼申し上げます。戦争体験ではありませんが、CD誕生を知る人材がいなくなる現実に危機感を覚えるなど、30年もの間、第一線のメディアとして存在するCDの歴史を紐解くにつれ、その並外れた技術に感嘆するとともに、様々な思いが頭をよぎりました。(T)